

一宮川流域における浸水対策の進め方 主な意見及び対応方針（案）

令和7年3月17日

資料4 - 1

No.	主な意見	検証会議委員の意見	対応状況
浸水リスクの可視化			
1	上流の河川整備の影響が下流へどの程度あるのか、河川断面にどの程度余裕があるのか。断面図で示してもらいたい。 鶴枝川の河川整備は、下流側の安全度を下げないように検討してほしい。		令和11年度までの河川整備が完了した場合の影響については説明済。 鶴枝川の嵩上げをした際の影響については、今後シミュレーションで確認する。
2	河口の洲が変化したり、養浜した砂が河口に入ったり砂が動いている。河口堆砂の検証を含めてやってほしい。		海側から河口に入ってくる漂砂をモニタリング等で確認することは必要であり、内容に関しては検討中。
3	「田んぼダム」を取り組んだ結果をシミュレーションできないか。上下流で貯める量の目標値が決められるとよい。	実際にどのような流域対策をやれば、どの程度の影響が出るか。今後は高頻度の雨なども計算しつつ、内水被害がどのように変わるかなどを検証していくといい。	必要に応じて、モデルに拡張性を持たせることなど、より良い可視化については検討していきたい。
4	埴生川流域など、今回のシミュレーションモデルでは可視化されていない箇所も取り込んでもらいたい。	今回のシミュレーションモデルは令和5年降雨に特化した作りである。今後、適用範囲を広げていく必要はあると思う。	必要に応じて、モデルに拡張性を持たせることなど、より良い可視化については検討していきたい。
5	河川整備の結果、本川の流量増によるバックウォーターの影響を心配する住民が多い。シミュレーションで説明できるのだろうか。支川の未改良部分の整備もお願いしたい。	本川全体の河川水位を低減する結果となっている。このことから、本川の浸水リスクを減らしつつ、同時に支川の浸水リスクも減らすことができていると考えており、現在の計画どおり進めていくことに意義がある。	必要に応じて、モデルに拡張性を持たせることなどより良い可視化については検討していきたい。

一宮川流域における浸水対策の進め方 主な意見及び対応方針（案）

令和7年3月17日
資料4 - 1

No.	主な意見	検証会議委員の意見	対応状況
補助制度について			
6	茂原市の補助事業（浸水防止対策事業補助金）のような制度を流域全体で活用できるように、県で検討してもらいたい。		類似事例調査を行いながら今後検討を行っていく。
7	「田んぼダム」を進めるには農家に対する補償をしっかりと考えるべき。安全と保証が重なっていないと皆さんが納得しない。	農業共済は農家の共済、流域治水は都市住民を含めたものである。感謝の仕組みは国と議論する際も出ていた。本質をつかれている意見だと思う。そこを検討していくことが今後の課題となってくる。	事例調査を行いながら今後検討を行っていく。
8	森林環境譲与税がはじまった。この仕組みと同じように流域治水も模索していくこともあると思う。		事例調査を行いながら今後検討を行っていく。
9	令和11年までの治水対策の工事が終わるまでの時限措置でもいいので、補償問題に踏み込めるものがないか検討している。民間の保険会社や国にもアプローチしている。今後、いい情報があれば共有いただきたい。		事例調査を行いながら今後検討を行っていく。
感謝の仕組み（上下流の関係性）			
10	流域治水の考え方のなかで、最下流は常に受益者だが、単にお金を出すというようなことではなく中流や上流に貢献できることはあるのか。	全国的な課題でもある。（感謝の仕組みを構築）まで進めば、全国でもアピールできると思う。そこは今後の課題になるか。	事例調査を行いながら今後検討を行っていく。

No.	主な意見	検証会議委員の意見	対応状況
河川整備について（治水・環境）			
11	親水公園を作ることができないか。河川を邪魔者にするのではなく、住民の方などにも楽しみ、親しんでいただける親水対策に取り組みながら、浸水対策も進めていきたいと考えている。	流域治水の対策が浸水対策だけを目的とすることはもったいない。 流域治水に協力すれば、「地域に何かしらのメリットがある」ような、地域から歓迎される流域治水対策を発明できればいい。	現在は、若干治水側にウェイトがかかっている状態ではあるが、決して河川環境の整備に関しても忘れているわけではない。 今後、上流の改修に着手していくため、どのような形で実施できるのか、具体的に協議・検討していきたい。
12	固有種の生息環境を維持しながら、有事の際は水を貯留するなどの考え方もあるのではないかな。 治水事業により鮭の遡上環境が壊されてしまうことに抵抗がある方もいる。治水と環境が両立した河川整備がされるといいと思う。	グリーンインフラやネイチャーポジティブ、生物多様性の観点からも楽しみながら実施してみるといい。	今後の改修などに併せ、どのような形で実施できるのか、具体的に協議・検討していきたい。
13	ある程度その河川整備が進んでいく中で、あるいは河川計画が明確になる中で、町の治水対策も、形になってくると思う。 まずは河川計画を示してもらい、どこまで要望していいのか悩みながら検討していきたい。		「上流の河川整備に対する悩み」についても、流域全体の中で理解し合うところを今後努力していきたいと考えている。啓発や広報など、若い世代からもご理解いただけるような社会を作りながら進めていけばいいと思っている。